

元治記事

二

和書門			
一七冊	一四架	二〇三函	一五八七四號
類			

庫文閣内		和書	
一五一函	一七冊	一五八七四號	類

内閣文庫			
番號	和	15874	
冊數		17(2)	
函號	151	20	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



石上長秋の神波一武三陸人位々群々赤石中
意若忠意者も赤石の遺蹟押借おれ一
浪名少流し大平山花使ホニ立上る者速ニ水戸殿
口願自江取成にお成其御是取仲ニ御細波
類を分給し使給る四職古獨は此を以て其未改の辰
人御之修成入信給る也 辰令水戸殿は各目
古賢尤も捕り小向法一り取千切殺りて
殺り尤も養交古獨は此水戸殿にお是正なる右し
領おの得給る以下知り取在東官出時より元
上道一石法おかたおとるにり楢丸又千討取交

人数の而も憐れ申合おとる也 助合は毎里も村
こゝろおれ申合楢取は此も以ても其處は此の是又
お殺り尤も石若は并寺は此は其小給おとる
諸合をいふに官奉取を地取をいふに人荷はを
取す子是人数を出は居るは其の多り村は其
石法は原く世法可法

但岡東西端出取也村一節千おとる也 赤石は其
右に既因八別并紙後因信使國取は其の面しおと
浪取は其相解

一日十月四日
六月

一日午上河内古坂辰

大目付

今般世及大平山并於列流波山之集也其古坂辰
其取法亦水戸殿下未定千余号就し御之様行
此也之宿悪業兼儀押知し御之様
押あし成古御り身らハは代友し御し文配取
夏端歳言中候場所之考此後と行し御し
亦合志右警束未と付人取入用し御し
此も政色並に苦み付千号中法り中未定千号
右之通冥八列并破後信儀波り御し御し御し御し

可相納

五月廿七日

一日年一月廿七日封也状

改役揚屋入

二九日多子居候
講去所算り文記
陰候御花役
侍助心算南へ侍候候
兼勤

吉田権之進

子亦拾三才

吹上草の支取下段
別紙に記す

伏見重吉市

子即拾四

法外附十人

村尾正亮他並

別紙に記す

内取又三市

子三十三

右記法と本信傳の口及元口月等
丁未二月内各

信濃守中候

三月廿七日

一、御取立の御用

大は若女及掃部代
上段是部三市

是見破三市

子三十三

一、下通守の上十口

合、御取立の御用

御取立の御用

宗三市

日、御取立の御用

文、御取立の御用

17

口

注以河之州地信

惠会信

日何家之

会如

口

右新筑尾渡河十口以宅以月廿出西高丸馬之
合渡河十口渡

一日四月十胃封也状

浦賀奉行地より

極

廿方吉市
子三十五

一下五尋以上

右主人上領大十口

口

坂橋久米

子三十九

右新法本信儀十口以宅以月廿中多邦の美石
信儀十口渡

四月十胃

一日四月十九日封也状

中人移宗信儀而地

井上公之三男

川上信之

敵意を以て種々 作らば成るも之より其所交
大樹上洛列藩より固意を成議も之より其列
隊に 聖意を以て先きに幕府に一切決案任
せ遊り奉るの未改令一途に出人心疑惑を不
生るるに化交 且命の能くして列藩通相心得
咸堂あり所可決り奉

但西衣し大故大後を可逆

奏聞り奉

右

一 聖旨に趣強る事其の長家成不肖許徳之旨白る

得たり其力咸堂古事其勿励可結海防は法

中上

在後

御請

横濱に於て是れより決港し決切下之

奏上り奉

但先達より 此上通之程に據るる勿論致

多決り奉

一 海岸防備に決り急務于一に其得る其備に決り奉

口元

括別口事 身現承此石 以増加し奉

一 關字平土の故より今條一畝身海内布多

一 仰夜辰六月十日 仕奉汝河浦奉

一 仁孝天皇御忌日 六日

一 新御平川院御忌日 十日

右例月于心得て是し海内布多し奉

右

幕府後色白し廉可得し奉

一 大樹代替將軍 宣し後乃仰元 上法可

政の事

但実日十七 累以下若代を以て凡中上十七

二 事取らり上法下法事

大

書白く通

一 三氣始石以上く西へ家督官位し凡中上

上法可仕奉

但十七 累以下 若代を以て凡中上十七 累以下

おもしろい上河津に上りし事

一西國大名関東に渡来し候付

一天氣勝りたる事

但滞京十日に可なり

日誌

法大名山故地往來し候付

天氣華

但滞京十日に可なり

一四男迄し通あけ委任し奉りて國に在りし事

何

殿意取計し事

有

此より少少法を以しは通し委任し候今更

候出候も無し候但君臣上下し各其を以

未しと恭順し意を交し書附執頭未し候

候將遣無し候可なり候事

一初延許忌日二重罪ハ勿論恒罪ニ至ハ是等ノ付

明安事

一九門口發來する向午二千石以上して去る事

口口

万石以上は古に二十石の事

一 法社 行幸の事

山内國不意所と春秋古有信は定年兼

るに 作止江人難候はし 不意所は信候事

類の事

右の

尚道く可也 作止の事

一 法古名國府(日一)而采年と真秋てまじり

但法候度繁く打扱はれ合ふ合ふ年(日)

恒し度為候事 不意所は信候事

大の

書面し飯但式付。所司代の日限古同式
傳ふ是因之上千而ふ養去所古可上事

一 親王巫相薨去候 御天度

御し四方より海内留為候事

但日教於親王悉相七て乃三教三六通
切信 奏友保も伊昔教也乃方尤中し通
事老と幕府親族死去の節以の當受信
下斗止あ音日得其來千候止止り

一 正秋の如く度あり居下はり

但 幕中より正秋のや西方の南の曆西大
の軍の凶方有南年一は是合來五年冬
三年一吉月良辰古撰て西掛のりりり

一 伊集院 幸中し 如く度は死烟

仙洞左院の如く可仕事

一 泉涌寺 伊集院勅以入お格く入之る所又

可中付事

一 禁中 出延向は改年向入高り居て中付り

一 皇子女女て成丈 伊集院より來り居仕

交り事

但永徳の良法集の 評議之上り事

旨

下札の外に除若て為書あり色事

今度 卷用信十八ヶ条書面以下九ヶ条
御用信は實に一通一事果らず話事

御延了奉へ道をもとめし書体云々の中古件々
廿八ヶ条目以下九ヶ条は御中暗合へ御事とす列向
不致合せし所可仕

元治元年四月廿九日

慶喜

直克

忠績

忠精

正邦

一平岡丹波守貞次宅下控出の書件

御知り申下徳西参由郡水原庄村へ御下寄物

より下野河老も最回度世仕古候より長交申二月

下旬水戸信人へ申常井川彼へ尋人取回恩施

波山引移田丸指書り申事迄重直云取長山田

一節申事の直令所て目控へ上申出日々軍用令

二申申付三月廿九日水戸信人村名面し老丸日

山より出月令陸中使並一控支長十三日申度

重直取斗方立し千席控指梅乃重直十ヶ条申一

令にて控指と編し余控し申事は三月朔日下野

一河内之飯田(尾)の括り

伊福寺願下常列古壁郡酒寄村名至九念情而
此古宗東山猿尾村名至七市久月廿九日尾
波町止此波居水戸小川彼中土止山田
一市の中後飯田より名て瓦城名以書西中城の
名不取故三人して流名は名取知一市十才七
兼り取ら合子借用波居の六方あり出来は
得る何人多人取し飯田引是石千之知各一方
も借用はし古有る千是下出向借用三波居
得た右より七女童瓦石止て波居の^{わたり}名は是也

お拓の能く各方力に歴文借用波居右合子波
七市所名は係八分の波居名の中の方引退係
八分取人名九念情中三拾名を名取し百与
長七市千七念五刻合し名取才二種及飯力
この名備八五取波合し秋お欲寄名知漸く取念
し上言九念情指女名古宗二拾名七市指
又与に抄合引所名方即別重子五端山田一市に
お後り交示飯原抄抄波九念情左念情右もわ
し河内善台名英文引取飯原左念情右念情
中城の比市指飯原出飯原名と上言各名

廿五日

平上伊福丸

六月十七日

令子包八郎

口使高

天理民七郎

若代 旧村石見守

仙石次公坊

後代

中嶋次郎

一以十八日田平氏

津波見早く市中台外腰

柳江郎居いとのまじい奴ふん付ふれし幸長依く

若手若六 伊甘

右折平園丹波才宅同人中津川列所毎く口月甘

如多邦し助三合

六月廿日

後葉 文帳

先以公案南下、持所帶悉初在吉方南下、向
在部一控才納云松平死後、松平執中、在後院
幸十、指揮、下、終、

還仰、上、從、中、上、商、及、方、依、り、右、後、院
下、若、右、持、者、口、作、出、
本、通、於、二、條、仲、談、
作、出、右、方、右、人、傳、向、上、
と、事、下、事、

一新改組の商案

一、改組の商案

其人、身、元、在、所、

一、五人扶持

其人、身、元、在、所、

一、内助人扶持改組

一、全、口、居、三、あり

門、外、右、口、死、引、合、指、八、右、改、令

一、五人扶持

中、既

一、内助人扶持改組

一、全、口、居、あり

一、内、部、拾、又、友、口、死、引、合、拾、又、友、口、改、令

一人扶持 平

色女おと

右へ通 五月十日 酒井 九毒 厨 石 交 ありそ 家
お活 沼 川 度 十 後

天

白川

元新使徒

山田一節

加茂虎(物)系来

田沼 裁 派

松平 彦 吉 右 衛 門 左 衛 門

天 北 準 治

豊 岡

佐 友 徳 助

右へ通 元 去 年 十 七 日 以 前 迄 重 治 公 子 彦 吉 右 衛 門 左 衛 門 本 村
甲 斐 守 右 衛 門 宅 下 池 田 所 治 公 子 彦 吉 右 衛 門 左 衛 門 山 田 一 節
如 山 田 一 節 七 郎 右 衛 門 左 衛 門 彦 吉 右 衛 門 左 衛 門 白 川 家
占 領 領 事 成 立 事

五月十九日

七石末女正

此列之文細細居居信原流進之巖河段増長
其分結摩方之河水戸敷の所至まじ若きとゆ
古人数也之運速之石絶早し追討之の事其の志を
此注載す口伝ある事今中名河傳承の故に

鳥居丹波守

戸田長守

松平指磨守

河内大船氏

細川玄蕃氏

井上伊豫守

水田日向守

戸田細末守

石川守徳守

古井大船氏

石久々

石川伊左守

と交せし物

此列之集致居居信原流進之巖河段増長
其分結摩方之河水戸敷の所至まじ若きとゆ
古人数也之運速之石絶早し追討之の事其の志を
此注載す口伝ある事今中名河傳承の故に

市ノ方發來ト合人叔若也此ト云ハルモ妻
御ノ懐ト以幼是事ハ行カズ候ハ

三枚宗也所
小差系六所

日三云

口代友尾代坊ノ物丈死下

六月十日

右之村河内守候ノ

中ノ上ノ書候
中ノ下ノ書候
中ノ下ノ書候

一 當月廿日辰時陽動亂一糸園東亦あり候ノ外

こノ風流可々候ノ外ハ其ノ外ハ死也云々候

今今ノ不取取候事ニ付タラシキ端リナク書

大村ノ御書等ノ外ハ一糸園終取居候方口東下口東

川ノあり候事ハ不取取ノ用候仕合得ト候事云々候

不取取以下向ノあり候事ハ一糸園師ハ一糸園何ノ記

取居候方取居候別當之儀ニ付テ入事候一取居

候事ハ取居候事ハ一糸園一糸園一糸園

取居候事ハ一糸園一糸園一糸園一糸園一糸園

一糸園一糸園一糸園一糸園一糸園一糸園一糸園

火を焚く一付余の間我聞、及びしんぬ承
余し力もあき仲田ハ仰ししおき後手の刀を又
切さうらのかく将用平ら陰を切おき下仰し刀を
虎徹之こすく、云すく之あり、後き油の口を打あさ
きし、湯をを交す、進く、右方へ所馳行らん、之を
右御す、以、言、是、と、高し、御、し、の、稀、に、荒、し、得、た、今
言、し、破、多、事、こ、す、何、き、も、あ、ま、し、南、を、沸、く、危、急、し
余を助け、せん、え、す、は、事、り、る、を、志、ん

一 世食初、切、止、指、索、向、万、幸、用、旋、指、揮、お、ま、る、依、て、三、谷
長、道、し、右、方、南、方、を、以、響、文、為、以、作、ら、但、一、統、之、全、云

百、五、兩、以、供、世、段、口、依、能、十、七

一 関、東、書、も、去、人、こ、も、之、有、り、て、あ、く、上、京、以、依、指、く、
以、就、十、七、年、会、す、東、西、二、限、り、し、中、方、し、世、段、五、段、以、
用、旋、て、ま、す、ん

大、村、以、以、右、向、存、以、中、坂、水、井、指、索、あ、ま、る、以、然、
此、上、依、是、口、内、之、ま、く、述、く、 仰、目、見、以、上、以、右、出、す

左、右、得、た、人、例、無、し、る、其、力、上、席、と、り、 作、年、志、行、ま、ん
得、た、以、大、村、お、こ、下、立、下、中、中、以、再、り、其、依、く、因、親、又、下
也、世、段、中、親、十、上、指、を、以、文、で、作、く、止、あ、ん、る、を、何、様、
可、中、下、世、段、各、段、以、依、し、以、賢、考、以、述、書、年、信、ん、先、日

如何取し多し出来しは守物半之れに死仕
以先石取成海防は所中六日

六月八日

五馬会庫既

先列は所中古通戸向長門下所分北列越野
郡折本宿陣瓦表か如湯人取取立は表下中城
以中先向平吉交去九六日夜宿屋し徒急合向
石河屋し致る右陣屋も多人取押赤及地
爰宿方も上火を無燒研以付右陣屋も大
一日小池打中一及我半宿屋し表し日討取は者

北岸し沙の所をりぬ勢は向高の取在表し向
中怪取人ホ之し日夜曉宿屋し土小山宿し方
右退者も音も今以快志中城は秀河し候也
中下は所中古将元石取取海防は所中古以上
六月八日 右 同人

一日年井上河向中夜中城は所中古将元去交

大目付

去交年以長列に所屬し原土先世希去し中取
おぬは所長列表も石河門掛下中國日光山

し方んと五知也し然もあやの舟をそ何所何可
自可欲も短半止先し小龍て何所し拳動可
以も能中因所不有し協所も兼もあ何正
一 臣も心得程又捨人取も若出し考意取歸江し
性来し人精し古改怪来体しよの一切通江若改
乃来若押らて不通止成しよの之しは若
押て之節し五い万一し向も決しよの之しは若
月後討取可也

右し通因所若若も之し而しはて若若し世所万石
しし似り西ししも不商取可也若所

六月八日
元

世所大平山集也しと尤所し横行復替も其結後
重も乃の海壁方水戸假し人教は若出若若
由氏江若も若も山若も若も若も居故也し而し
も立江中し不陳屋也し若若指若も向も人教
一 日差出力を合せ酒をく分降取決す後若若止し府
日下若立入取二重斗て勿論し然若も若も散取不
後若も海取し知り取歸若若若若三川し若若列る
若若し討取若若若若取討取也

右記統因八代に於て御行の事と云ふ事古編にあり

六月

一日辛未月北洲大平山に在り浪士松子書何故の事

ふれし紙面、此の事知

水戸家浪士田丸格に在り、与中老大将三川俊成
若狭信長と云ふ田斗原に在り、常陸信長と云ふ人、在り
二百五十人、千石、前中細谷、北谷、陣、日光山、お
つと、信長、日光山、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
元、但、馬、十、石、人、取、日、光、寺、行、人、取、千、石、七、陰、決

此の事、田丸の事、日光山、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
大平山、お、信、長、一、中、坊、連、洋、院、を、中、陣、と、唱、へ、至
因、信、長、信、の、事、し、日光山、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
幸、山、内、院、院、下、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
を、浪、切、本、口、安、田、口、皆、川、口、先、見、浪、高、取、本、戸
杯、新、祝、出、來、至、夜、夜、夜、至、人、附、並、出、入、し、と、お
改、め、切、本、口、戸、外、口、下、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
此、七、陰、決、地、を、勝、り、と、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
立、夜、夜、し、と、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋
と、お、下、石、然、信、文、御、山、内、田、因、秋

本條以年早あり馬三ヶ所、馬幼ふ七麻刻に打
着用仕給ひ決むち決府杯勢、以凡俗南月又日
節分杯の坊本町、祐宮江の目土、よの拾五人に
あつし、城し、唱ひ、互^{わら}後木八市、千糸、何きも甲冑
、三島帽子を舞、陰決砲を投、大平山中陣
、いふ出たり、見更れ、突、陣中、以凡俗、こを
、いふ、ま心、坊等入、以決、三ヶ所、決、入、道、宿村、出
、決を處て、場、以、決、坊本、合、決、場、と、是、戸、赤、良、を
、日本、勝、お、生、着、せ、あ、取、ふ、こ、を、人、取、引、連、こ、も、こ、を
、河、原、も、大、寺、こ、山、張、所、こ、若、さ、寺、お、お、こ、及、決、判、接

お、及、決、判、接、決、判、後、固、あ、り、か、と、一、日、此、合、を、初
、と、指、忠、と、お、受、志、取、こ、中、は、固、思、と、お、受、合、子、決、納
、と、決、判、を、以、決、判、合、子、お、受、お、生、こ、ら、は、横、原、高
、以、初、こ、ら、よ、の、お、四、方、あ、り、お、受、出、し、凡、そ、戸、赤、良
、石、井、お、受、お、お、千、糸、百、糸、お、受、お、子、お、受、所、こ、又、お、
、お、受、お、受、お、及、陰、決、と、決、判、お、受、お、受、お、受、お、受、
、合、子、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、
、一、大、平、山、こ、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、
、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、
、十四、七、足、も、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、お、受、

を以て天二ツ不切耕... 平山下 門前

右一併に... 上石

浪士以下名並左に通

軍奉行

元丁八百石

田丸 稻子 七之

後田 少四郎

田中 保之助

竹山 百太郎

荒色 盛久

本村 忠之助

波多 治兵衛

張橋 金之助

山田 一平

大和 田介

宇都 五郎

戸田 弾正

河田 松吉

軍師

目録

長谷川 彦七
本戸身之市
畑 荒山
岩谷越一市
川波後七市
兼山吹波市
岩崎良博
廣島知也市
岩間久次市
中村新也物

田上 海右市
長谷川 信七市

右ノ外ノ市ノ名ヲ示ス

一日六月十日 麻布岩波寺道清上張紙字

岩概

不知書名何也此道古也此今夫使來船之由不
日押寄証付致り身右道方ノ所載老幼早
主運一ノ事九月之し之ハ奉成会也切テ動搖之致
日改靜居り此ニ致ル所江人下知候掛ケル事ハ

白川高島の中野原に於て内通し候事なり

山國に於て

沢村茂輔

仙心

本町役人中

一日六月十日

一日六月十日

治世の書付

松平右衛門

此別を暴行に及んば治世に違ふ事なり

お務り申進付也 作務の事なり此後法新改

可成り申進付也 此の事なり此後法新改

此の事なり此後法新改

牧地城中

日文云

此の事なり此後法新改

永見貞之也

小出順三郎

此別を為進付松平右衛門收地城中

此の事なり此後法新改

一日六月十一日 出

伊達造 小十
名代

伊達造 小十

内海 伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

右 院 伊達造 小十 伊達造 小十

酒 牛 丸 青 附

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

伊達造 小十 伊達造 小十

右 院 伊達造 小十 伊達造 小十

一日六月廿七日 出

山陵中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并
中ら抄案方々 作出の文并く長倫し山陵下
為從定寄り後之ふふふふ
言重し抄案一正し長倫の條見は色から
以右取し其案を以從定に依り罷り
只合の方以後長倫し抄案也
山陵中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并
後以上は抄案に依り
宛是の方向抄案國信の條可從今取先帝為

中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并

日向中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并
山陵中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并
中河浦舟元來沙場下付事定こふけ并
皇太子右未し抄案所千介重き方々抄案所
抄案以後大切なる抄案所あり候事
作出

右の條あり候事抄案所千介重き方々抄案所

五月

右の條あり候事抄案所千介重き方々抄案所

右之通可也

六月

大目付

大樹上活列為建陽... 定年先運... 委任花... 列儒も先... 伊沙法...

六月

右之通

作出り名... 伊沙法...

六月

一六月十七日... 伊沙法...

大目付

四目付

古言彼... 伊沙法... 大目付...

正打后居は本寺の母世女子掃下通了十元丸丸不
客易限係之しは凡便と云はれり

御新向焼拂二中よお何と造意数千人五一版中

三の心 同敷と申通し沈書数と云し斤所も概

一 於重石片ありと稱はれりし御意も云し中二ハ此

分此名お何り唐郵 或は所敷に借居は候も揚斗万一

修文御しと云しはりし者爲又十 此は江人云云と

捕七片云いを流意一味し中よ云しはりし掃索し上云

掃て片若事

但端の上系ある日又志云云と自ら附名書し

年附と云し所交内尔主高し人数て云はれり

右に既立系万石のしつ下長衣束上高をし而し下不

陽所可也事

右に通松平城申すも古建は云ふこと故に云ふ右肩

を平所素自然の云脱毛は源と云しはれり不審事

源所高師 延意版に知はれりし西に子千原に而し

云し胡乱しと階伏に云しはれりも揚斗は台 取掃向保

者云云と傳と云し掃索し上尺掛は才と稱しはれ

りしと切後討取要流御意 石陽所 延是事ん

右に飲万石以上云し西に出料和院寺社所云し

五月廿二日

六月

子居丹波

在江最赤洲江流遠く流進く暮竹塔を去る
い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを
い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを

右左に十音口筆書 世後舟 本号所も在立はに在候
る七月七日八日江左江右看にあかこ中ん

い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを

い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを

い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを

い舟越し通大夜加多りぬ 所免り方よしを

朽木宿舎に於て川所を石戸田に陣を置し
以て石戸田令三万五千と云ふ事ありし中壬午の
少中は舟公云々陣を及に接し其方五千と
統率出合し其行し六ヶ夜六日三ヶ夜入下し
火を附陣に接し其方人下きし石戸田に朽木を
退三里を夜中小山宿舎に退きしんを所と城下を
同之を以りて武志と云ふ令子と云て居出合し其
中其方四里結門と云ふ人尤退き去り流波下を
以て中其方宿舎下居し朽木陣に人散り於て
人散り流波下下出流波下中其方人

一 田丸宿舎に在りし中其方大将と云ふ事ありし中其方
振りしと云ふ事ありし

一 日光山に因りて秋田本陣に於て其方
兵六百人と云ふ事ありし中其方山宿舎

一 信濃守に水戸振りし中其方
松平右衛門元振りし中其方下別結別左衛門元振りし

名に追討し其方乃石戸田代に使者永見直し
其方小山に於て其方山宿舎

一 甲斐守戸田宿舎に於て其方九万と云ふ事ありし中其方
以て其方火を付燒掃し其方捕りし上及び其方山宿舎

今日之... 日之... 日之... 日之... 日之...

...

...

...

...

...

...

...

...



